将来に誇れる安全な川づくりを…

黒谷川・叶津川改良復旧事業工事開始

福島県は、昨年7月の豪雨により被害を受けた黒谷川と叶津川の改良復旧事業工事を6月6日に開始、同日、黒谷字黒下地内の現地で安全祈願祭と起工式が行われ、目黒町長はじめ関係者約100人が出席、安全祈願祭では代表者が玉串奉奠などで工事の無事故を祈った後、起工式では、目黒町長が「地域が将来に誇れる安全な川づくりをしてほしい。期待しています」とあいさつしました。その後、村田文雄副知事の起工宣言に合わせ、代表者が河川で工事を行う重機の起動ボタンを押して、工事の開始を祝いました。

黒谷川の工事は平成26年度まで約6・6キロの護岸工事などを行い事業費は約33億円。叶津川の工事は平成25年度まで約3・1キロの護岸工事などを行い事業費は約14億円となっています。

▲玉串をささげ、安全を祈願する目黒町長

住民の安全確保に万全な対策を…

只見町と電源開発が協定締結

昨年7月に発生した豪雨災害を受け、只見町と電源開発とで「ダム放流時の通報並びに住民への周知等に関する協定」を締結しました。締結式は6月25日に役場本庁で行われ、目黒町長と大倉雅哉電源開発東日本支店長が協定書にサインしました。

目黒町長は「協定を有効に運用し、住民の安全確保に努めていく」と述べました。協定では、大雨に伴うダム放流時に電源開発が事前に町に通報することや、お互いに連携して住民への周知に取り組むことなどが定められています。なお、詳細については住民の意見を考慮し調整されます。

▲協定書を手にする目黒町長(左)と大倉電源開発東日本支店長

ろうそくのやさしい光でエコを考える

100万人のキャンドルナイトin只見

只見川公園を会場に6月16日、100万人のキャンドルナイトin只見が実行委員会の主催で行われ、大勢の来場者でにぎわいました。

公園内には只見高等学校のボランティア部の皆さんなどが約千本のろうそくを設置、灯りをともしました。辺りが暗くなるにつれ、ろうそくのやさしいオレンジ色の光は幻想的な夜の世界を作りだし、訪れた方々はエコエネルギーの大切さやエコライフの必要性などを考えながらスローな時間を過ごしました。

会場内ではアコースティックライブなどが行われたほか、只見高等学校の茶華道部の皆さんによるお茶会もブナセンター内で催され、訪れた方は癒しのひとときを楽しんでいました。

▲只見高校茶華道部のお茶会

▲幻想的な夜を演出したキャンドルの光

農村生活を体験・農家の方と触れ合う
東邦大学付属東邦中学校農家民泊

只見町子ども農家体験協議会の主催で、6月6日から7日の二日間、農家民泊事業が行われ、東邦大学付属東邦中学校（千葉県習志野市）の2年生、268名が参加しました。

受け入れは、只見町と南会津町で行い、只見町では36軒の農家に149名の生徒が宿泊し、畑で野菜の種をまいたり、肥料や水を与えたり、除草作業を手伝ったほか、そば打ちを体験した生徒もいました。また、夕食の準備も一緒に手伝い、焼き肉などを食べながら、生徒の皆さんは目を輝かせ農家の方と語り合い、自然に囲まれた只見の夜を思い思いに楽しみました。

農家民泊に参加された中野凌さんは「畑での作業は大変でしたが、只見は自然がきれい、山がいっぱいあってすごい。住んでみたくなりました」と話し、遠藤有紗さんは「畑には虫がたくさんいて大変でした。只見は山がいっぱいで空気がおいしい。ずっとここにいたい気持ちです」と感想を話しました。

この事業は、福島原発事故に伴う風評被害を払拭することも目的の一つに実施されています。

▲畑に野菜をまく中学生

▲大自然にかこまれ記念の一枚

タイの大学生ら只見町を訪問
青少年国際交流「キズナ強化プロジェクト」

外務省が主催し行なっているアジア地域や北米地域の青少年が、東日本大震災や豪雨災害による被災地を訪れ、地域の方と交流しながら復興状況などを学ぶ「キズナ強化プロジェクト」事業の一環で、6月26日から29日の四日間、タイの大学生23名と高校生1名が只見町を訪れました。

大学生らは、季の郷湯ら里で只見民芸品保存会の方の指導を受け、つる細工でザルを作ったり、昨年の豪雨で被害を受けた黒谷川を見学、福島県担当職員から被災状況や復旧工事などの説明を聞きました。その後、福島県環境検査センター南会津営業所（黒谷）で食品の放射線量検査の様子を見学、放射線が人間に与える影響などを学びました。また、明和小学校を訪れ、授業に参加したり給食を食べたりして全校児童と交流したあと体育館でお別れ会を行い、大学生代表のナティウット・ゲオインターさんが「皆さんと触れ合えたことは一生忘れません。只見町で学んだ災害や復興の様子はタイに帰って広く伝えていきます。只見町が早く復興することを願っています。ありがとうございました」とあいさつしました。今回の事業で体験されたことは大学での研究活動などに生かされるとのことです。

▲只見町を訪れたタイの大学生と先生

▲明和小学校の児童と記念の一枚

福島県学校歯科保健優良校表彰
明和小学校が優秀賞受賞

福島県教育委員会などが主催する平成24年度福島県学校歯科保健優良校表彰（第56回よい歯の学校表彰）において、明和小学校が優秀賞を受賞しました。この表彰は、児童生徒に歯や口の健康について関心を持ってもらうことや、健康観を育成することを目指し、毎年行われています。明和小学校児童の歯を大切にする毎日の活動が評価された結果と思います。おめでとうございます。

▲賞状を手にする小林和俊明和小教頭（中）と目黒町長（右）と久保副町長

只見町ブナセンター

中静　透教授
森林の「生態系サービス」を講演
第１回ブナセンター講座

6月16日、只見町ブナセンター（ただみ・ブナと川のミュージアム）で「森林の恵みとその背景・生態系サービスを考える」と題し、第1回ブナセンター講座が開かれました。講師は東北大学大学院生命科学研究科の教授「中静透」氏で、町内外から40名の参加がありました。中静氏は、日本におけるブナ林研究の第一人者であり、2001年に只見で開かれた第1回世界ブナサミットの講演者の一人で、奥会津森林生態系保護地域の設定委員会の委員を務められるなど、只見のブナ林とは深いつながりがある方です。

▲森林の生態系サービスを解説する中静透東北大学教授

森林の生態系サービスは、人々が享受する森林からの恩恵

中静氏は、まず生態系サービスを、森林で言えば、「森林の恵み・恩恵」と言ったもので、それは単に木材とか、山菜、キノコといった直接的な「森林の生産物の供給」と言ったものばかりではなく、森林の持つ気候緩和や水土保全、病虫害の防止などの「調整機能」、そしてレクリエーション、保健休養、信仰など「文化的な機能」を含めた広い役割を指すことを解説しました。さらに、こうした機能が実は生物多様性と深く結びついていると指摘しました。しかし、中静氏は、生物多様性を希少な動植物の保護・保全という狭い意味で捉えるのではなく、地域の多様な生態系の存在とそれを背景とした豊かな生物相、さらに遺伝的な多様性と地域の固有性の保全が重要であることを事例を挙げながら示しました。

失われて初めて理解される森林生態系の役割

只見町に暮らす私たちは、余りある豊かな自然の恵みを享受している結果、日ごろ森林の役割を意識することがありません。一方で、昨年の豪雨災害の驚異は、自然がもたらすものは恵みだけではないことを私たちに知らせました。それでも、私たちは自然の系（システム）に依存することでしか生きていく術を持ちません。失われて初めて自然の役割の大きさを知ることになりますが、そのときは既に手遅れかもしれません。今回の講座は、森林の恩恵（恵み）を科学的な視点でとらえ直し、その重要性を理解し、今後の生活に生かしていくためのよい機会になったと考えます。

中静氏と楢戸のブナ林を散策

17日は、楢戸のブナ林で「身近なブナ林」を歩く自然観察会が開かれ、雨模様にもかかわらず、町内外から15名が参加しました。楢戸のブナ林に入り、前日講演された中静氏が、ブナの種子生産から実生の発生、そして世代交代のプロセスをわかりやすく解説、参加者も実際に林床に生残する稚樹の樹齢を芽鱗痕の数から調べるなどして、ブナ林の生態について理解を深めました。参加者からは、身近なブナ林でも、そのすばらしさを知る機会が持てたと感想が聞かれました。

8月1日には、ブナセンター名誉館長の河野昭一先生（京都大学名誉教授）とブナ天然林を歩く観察会も予定されていますので、ご参加ください。

▲楢戸のブナ林内で、ブナ稚樹の年齢の調査法を学ぶ参加者

【問い合わせ】
只見町ブナセンター
☎0241―72―8355

基礎学力の向上と保障のための連携

町内保育所長・小中学校長・高等学校長連携会議

教育委員会では、幼児・児童・生徒の様々な課題を関係機関が連携し解決を図りながら、将来を担う子どもたちの豊かな人間性を育むことを目的に、学力向上を目指した各種対策を実践しています。

その一環として、6月11日に只見地区センターで、第1回町内保育所長・小中学校長・高等学校長連携会議が開かれ、関係者が出席、町内の児童生徒の学力の現状を把握し、学力向上を図るために取り組む課題や、今後の重点実践事項などについて協議、確認されました。次回は11月に開く予定で、具体的な取り組みの検証が行われます。

なお、学力の実態と実践事項は次のとおりです。

▲連携会議の様子

○学力の実態

平成23年度のＮＲＴ（町独自に実施している標準学力検査）の学力偏差値の結果です。
学力偏差値とは、教科の得点ではなく全国基準による学力標準得点で、全国の平均を50としています。

	国　語	算数・数学	社　会	理　科	英　語
只見小学校	54.3	52.9			
朝日小学校	51.3	50.7			
明和小学校	54.8	52.9			
只見中学校	49.7	46.5	48.6	48.7	48.4

【課題】
＊小学校では全国平均50を十分上回る状況ではない。
＊中学校では全国平均を下回っている。また、学力の高い層と低い層の二極化がみられ、さらに知能と学力の関係では、知能に比べて学力が低い状況が多くみられる。また、家庭での自主的な学習習慣が確立できていない。今後、高校卒業時に自分の夢を実現させるのに十分な学力の保障をしていかなければならない。

○重点実践事項

①学習意欲の喚起
各学校の大きな課題。学校経営の重点と位置付け、家庭と連携し対策を講ずる。

②個別指導の徹底
少人数の特性を生かし、授業で学習内容の定着を図るとともに放課後や休業中を活用した指導を徹底する。

③教師の指導力向上
年間の授業研究を通して「分かる授業」づくりをしていく。

④スポ少や部活動の見直し
関係者との協議を重ね生活全体の見直しをしていく。

⑤保護者の協力
家庭での基本的な生活習慣の確立を図る。

⑥読書への親しみ
特に、保育所では学力の基礎としての読書量を増やしていく。

以上について、関係機関・団体と連携し、今年度取り組んでいきます。

人権擁護委員に藤田節子さん

平成24年7月1日付けで藤田節子さん（只見）が、只見町担当の人権擁護委員として法務大臣の委嘱を受けました。

人権擁護委員は全国の市町村に配置され、地域の中で人権思想を広め、人権侵害が起きないように見守り、人権を擁護する取り組みを行います。住民の皆さんにとって、人権に関する一番身近な相談相手となる人です。

只見町では、藤田さんのほかに菅家達朗さん（黒谷）、山内妙子さん（梁取）も人権擁護委員の委嘱を受けて活動しています。